

佐賀市文化財調査報告書第31集

牟田寄遺跡

平成2年3月

佐賀市教育委員会

発 刊 に あ た っ て

兵庫南部地区は平成元年度から、農業基盤整備事業が開始されました。

この事業に伴い、削平される計画にある遺跡部分の調査を実施しました。本年は牟田寄遺跡の埋蔵文化財発掘調査を実施し、古墳時代の土壌、奈良時代の土壌・井戸、中世の土壌・溝等を検出しました。出土遺物には銅鏡、土師器（甕・壺・坏・小皿）、須恵器（坏・鉢・壺）、瓦器（埴・小皿）等があります。

この中でも奈良時代の土壌・井戸から出土した須恵器・土師器の一部には墨書を有するものがあり、佐賀市域の古代史を究明する上での好資料となるものと考えます。

また、同地区は牟田寄貝塚が所在する所として古くから知られていますが、その詳細は明らかにされていません。今後の調査により遺跡の広がり、内容等が解明されてくるものと思います。

なお、調査に際しまして、御協力いただきました佐賀県農林部、佐賀県教育委員会、ならびに地元の方々に対し、厚く御礼申し上げます。

佐賀市教育委員会

教育長 山 田 清 人

目

次

I 序 説	1	III 調査の記録	3
1. 調査に至る経過	1	1. 調査の概要	3
2. 調査の組織	1	2. 遺 構	3
		3. 遺 物	8
II 遺跡の位置と環境	1		
1. 遺跡の環境	1	IV 小 結	15
2. 歴史的環境	2		

例

言

1. 本書は農業基盤整備事業に伴い、平成元年度に実施した牟田寄遺跡（B・C・D地区）の発掘調査報告書である。
2. 調査は佐賀県農林部の委託をうけて、佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査地の所在地および規模等は下表のとおり

遺跡登録番号	2094・3110・4030・5076	遺 跡 略 号	MTY
調 査 地	佐賀市兵庫町大字瓦町字牟田寄	開 発 面 積	155,000 cm ²
調査対象面積	3,000 m ²	調査実施面積	3,000 cm ²
遺跡調査番号	0107	調 査 期 間	平成元年6月9日 ～ 同年11月15日

4. 発掘作業・整理作業・報告書作成の分担は以下のとおり。

表土除去	有限会社 江下建設	遺構個別実測・写真	福田義彦
写中写真	有限会社 空中写真企画	遺物復元	馬場恵美子
遺構実測	有限会社 若楠測量	遺物実測・製図	貞包洋子
5. 調査・整理記録及び出土遺物は、佐賀市文化財資料館（佐賀市本庄町1121）で一括収蔵している。出土遺物は、佐賀市埋蔵文化財整理要綱に基づき整理している。
6. 本書の執筆は福田義彦がこれにあたった。

凡

例

1. 遺構については略号を用いる。分類は次のとおり。

SK：土壙，SE：井戸，SD：溝，P：小穴
2. 原則として、遺構の測定値はm単位、遺物はcm単位とした。
3. 表示した方位すべて座標北（G・N）である。

I 序 説

1. 調査に至る経過

兵庫南部地区の農業基盤整備事業は173.4haのは場を事業対象として計画されている。初年度事業として15haが提示された。これに伴ない、昭和63年12月に同地区の埋蔵文化財確認調査を実施した。同地区は工事申請についての地元同意が遅れ、確認調査時にはすでに麦が播かれていたが、地元了解の上調査を実施した。その結果、牟田寄の集落内に遺跡を確認した。この調査結果を基に、県農林部、県文化課、佐賀市土地改良課、佐賀市教育委員会の4者で協議を行ない、水路予定地の2,250㎡について佐賀県農林部委託事業による発掘調査を実施し、記録保存を図ることになった。

発掘調査は平成元年6月9日から開始し、同年11月15日に終了した。（人力による調査は同年8月26日から開始）出土遺物の整理作業、報告書作成作業は佐賀市文化財資料館で行った。A地区の調査については佐賀市文化財調査報告書第28集を参照されたい。

2. 調査の組織

調査主体 佐賀市教育委員会

事務局 佐賀市教育委員会 社会教育課

課長 古川靖邦

課長補佐兼文化係長 中野和彦

事務吏員 甲木亮一（庶務担当）

同 福田義彦（調査担当）

発掘作業員

松永フジエ、久富妙子、古賀フミ子、千住菊江、松永清子、吉浦末子、真崎章江、公門昭子、公門幹枝、詫間正子、後藤信子、真崎イサ子、篠木美枝子、前田幸子、江口マサミ、江口ヒロ子、新郷寿美江、伊東のり子、小森秀子、石井幸子、古賀マサ、貞包久枝、山田久子、園田秀子、江下和子、宮地富士子、坂井初代、西村トシ子、深堀ヨシ子、式町幸子、新藤クニ子

II 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

牟田寄遺跡は、佐賀市兵庫町大字瓦町字牟田寄にあって佐賀市域東部の標高3mを測る水田に所在する。

遺跡は焼原川から派生しているクリークに隣接し、当該事業で発掘調査を実施した3地点のうち2地点のB・C地区は環濠集落状の景観を呈する。同地区は「牟田」に示されるように、元来低湿地であったと考えられるが、水稻成育期の農業用水確保のため焼原川及び周辺のクリークは、焼原川終点に樋門を設けられ一定の水位が保たれており、それが遺跡の排水を困難にしていた。

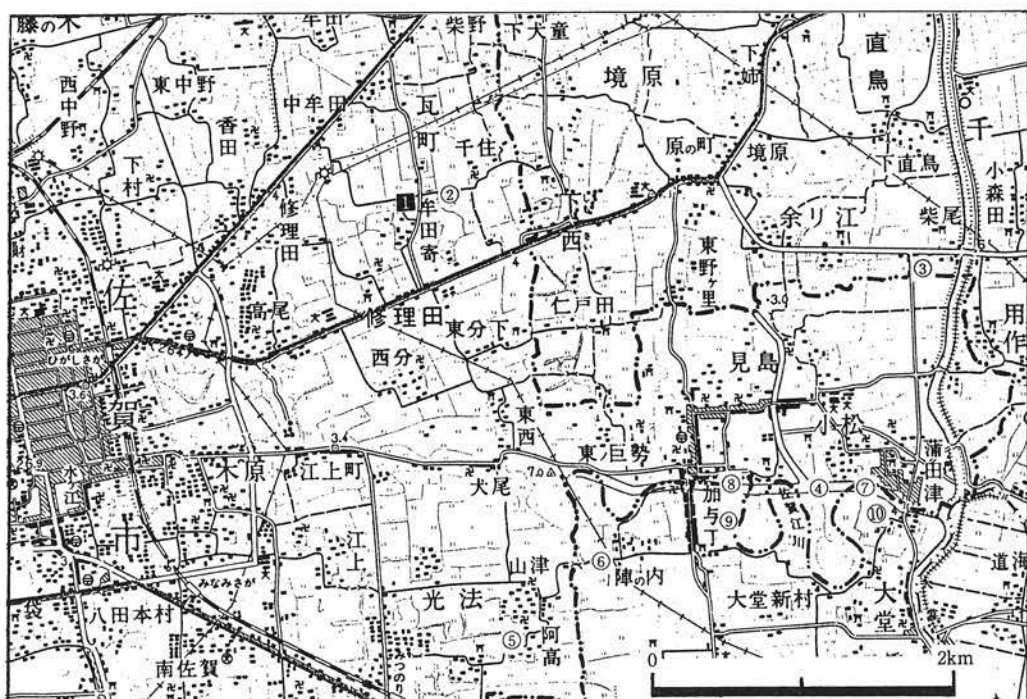


Fig. 1 牟田寄遺跡周辺遺跡分布図

- 1 牟田寄遺跡 2 牟田寄貝塚 3 柴尾橋下流遺跡 4 蓮池上天神遺跡 5 阿高遺跡
 ⑥ 唐人廟遺跡 ⑦ 村中角遺跡 ⑧ 小曲遺跡 ⑨ 加与丁野村遺跡 ⑩ 村中角遺跡

2. 歴史的環境

佐賀市域の南部は北部と較べて、遺跡の密集度は低いが、同地区はその南部域の中では比較的遺跡の集中が見られる地区である。

周辺遺跡には千住遺跡、伝・阿弥陀寺跡、伝・光明寺跡、伽藍遺跡、牟田寄貝塚、平尾遺跡などがある。また、同地区の東側には貴別当神社遺跡（千代田町）が所在する。この中で、牟田寄貝塚は正式な調査は行われていないが、湧水期にクリーク壁面を観察すると貝層や多量の弥生土器を見い出せる。牟田寄遺跡周辺の発掘調査例としては、柴尾橋下流遺跡（昭和56年度調査、蓮池町古賀、弥生時代後期～鎌倉時代）、蓮池上天神遺跡（昭和58年度調査、蓮池町小松、鎌倉時代）などがある。両遺跡とも標高3m程度の平野部に所在する。

古代には地方行政組織として国・郡・里（郷）が定められたが、同地区は巨勢郷^{註1}の縁辺部に所在しているものとする。中世になると同地区は長講堂領（後白河法王寄進）の莊園域となっている。

近世になると佐賀藩鍋島家の親類である白石鍋島家、村田鍋島家の知行地となった。

注1 「佐賀市史」第1巻

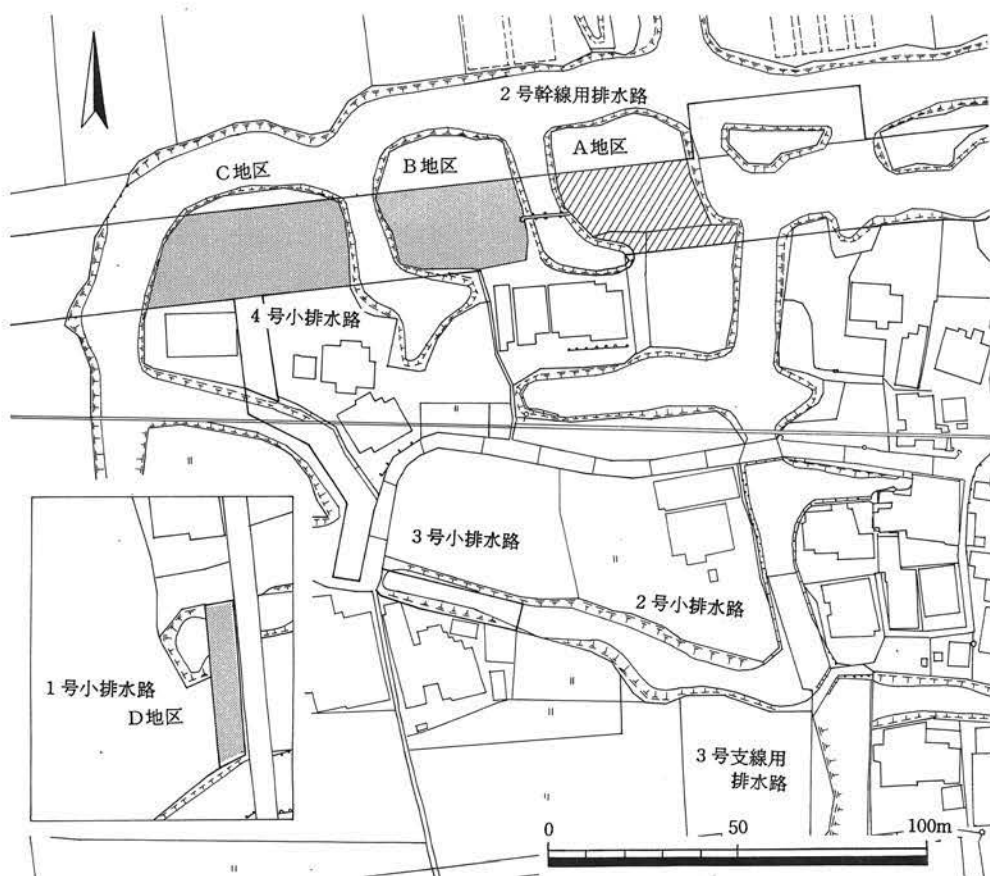


Fig. 2 遺跡周辺見取図 (S=1/2,000)

III 調査の記録

1. 調査の概要

調査区は牟田寄集落の北部2地点 (B・C地区) と南東部1地点 (D地区) の幹線水路及び支線水路予定地である。

調査の結果、井戸17基、土壇34基、溝10条、小穴等を検出した。これらの遺構は地表下0.3～0.6mで掘込み面を確認した。地山はC・D地区が淡黄褐色砂まじり粘土、B地区が黄褐色粘土層である。遺構埋土は黒色、淡黒褐色を基調とするものが多く、掘込み面の確認はB地区の溝を除くと、比較的容易であった。

なお、D地区については、昭和20年以降のゴミ投棄場所として使われていたため、大半が攪乱をうけていた。小穴、溝を検出したのみである。

出土遺物には、銅鏡・弥生土器 (整地層出土)、土師器 (甕・杯・壺)、須恵器 (杯・壺・甕)、瓦器 (坏)、木器等がある。

2. 遺 構

SK008土壇 (Fig. 3)

B地区の東南隅にあって、南東約1mにSD011がある。上面の平面形は東西に細長い隅丸長方形を呈する。長軸1.54m、短軸0.63m、深さ0.43mを測る。底面にはわずかな起伏があり、

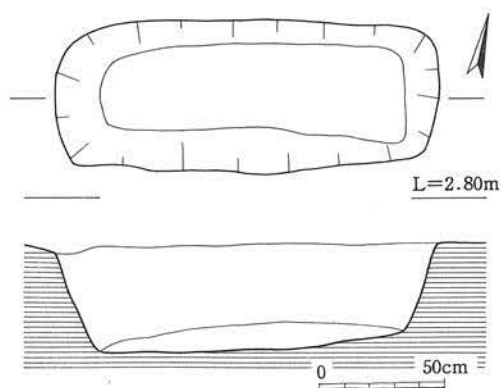


Fig. 3 SK008土壌実測図(S=1/30)

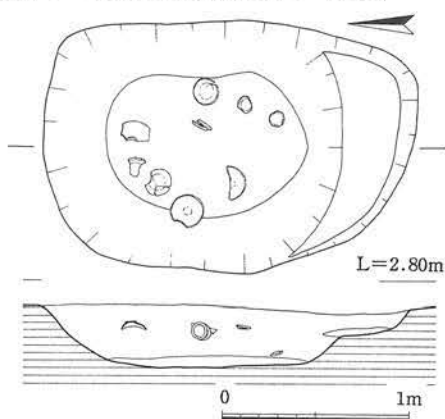


Fig. 4 SK015土壌実測図(S=1/40)

C地区の北西隅にあって、西側約2mにはSK026が隣接する。上面の平面形は不定形。当遺跡にあるこの種の土壌3基のうちの一基である。測定値は最大長2.9m、最大幅2.4m、深さ1.01m。底面は緩やかな起伏がある。壁は四方とも直立気味に立ち上る。北部から東部壁にかけてやや内傾する。

埋土は黒色土、黒褐色土、淡褐色土の3層に大別できる。残存状況が良好な遺物は図化した。そのほとんどが黒色土、黒褐色土からの出土である。主な出土遺物には土師器（高坏・坏・壺、皿）、須恵器（高坏・坏）などがある。底面直上の遺物はなく、その出土状況は遺構が埋没する過程で投棄された様相を呈する。黒書を有する土師器（皿）を検出した。

SK018土壌 (Fig. 6)

C地区南西部にあって、SK039・040と切合っている。新旧関係はSK018が最も新しい。上面の平面形は東西にやや長い隅丸長方形を基調としている。検出時の測定値で、東西軸2.53m、南北軸2.41m、深さ0.33mを測る。底面は起伏がある。壁面はやや角度をもって直線的に立ち上る。北東、南西コーナーの立ち上りが、他の部分に較べてやや緩やかなものとなっている。

埋土は上層黒色土、下層褐色土の2層に大別できる。出土遺物は埋土全域から検出したが量的には少ない。主な出土遺物には土師器（小皿）がある。

東壁部がやや浅くなっている。壁は比較的角度をもち直線的に立ち上る。

埋土は上層淡黒色土（灰混り）、下層淡灰黒色土の2層からなる。出土遺物には土師質土器、須恵質土器を検出したが、いずれも細片で図化できない。室町時代以降の所産と考える。

SK015土壌 (Fig. 4)

C地区南西寄りにあって、東にSE17が近接する。上面の平面形は楕円形を基調とする。検出時の測定値は、南北軸1.91m、東西軸1.3m、深さ0.33m。遺構北端には最大幅0.3m、長さ1.1mの三日月状のテラスがある。底面はわずかな起伏があるが、概ね平坦。壁は四方とも緩やかに立ち上る。

埋土は上層黒色土、下層褐色土に大別される。遺物は埋土全域から検出した。主な出土遺物には土師器（坏・小皿）、瓦器（埴）などがある。出土遺物の残存状況は比較的良好であった。

SK016土壌 (Fig. 5)

SK031土坑 (Fig. 7)

C地区の中央東寄りにあって西半部上面をSD029に切られている。上面の平面形は北東から南西方向に長軸をもつ楕円形を基調とするものと考ええる。検出時の測定値は、長軸2.05m、短軸1.50m、深さ0.77mを示す。底面は概ね平坦。北東部から東部にかけての壁が角度をもち直線的に立ち上り、他の部分はやや緩やかである。

埋土は上層黒色土、下層褐色土に大別できる。遺物は埋土上層に比較的集中していた。主な出土遺物に須恵器（坏・高坏）がある。墨書を有するものも検出した。その他、長さ20cm程度の自然石を掘込み下0.5m程度で確認した。

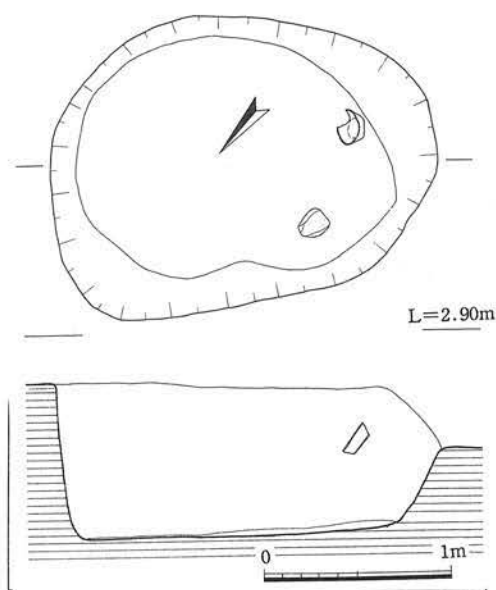


Fig. 7 SK031土坑実測図(S=1/40)

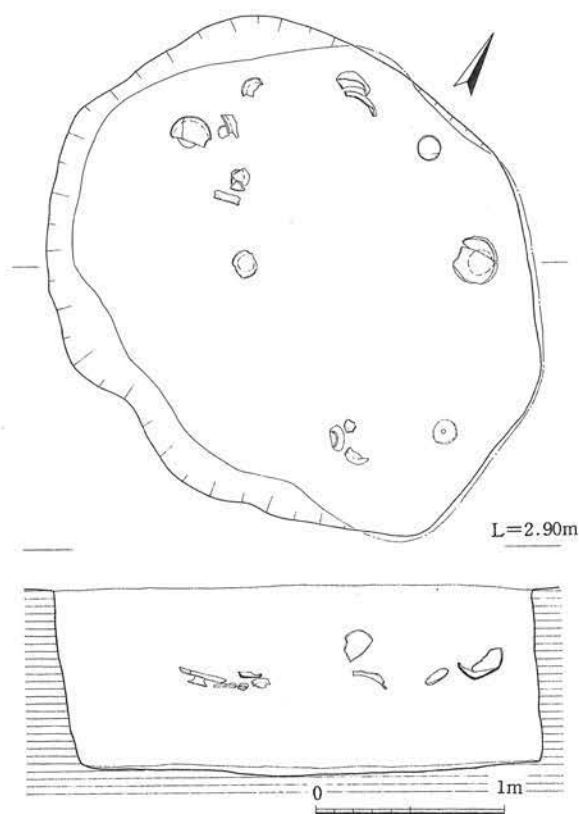


Fig. 5 SK016土坑実測図(S=1/40)

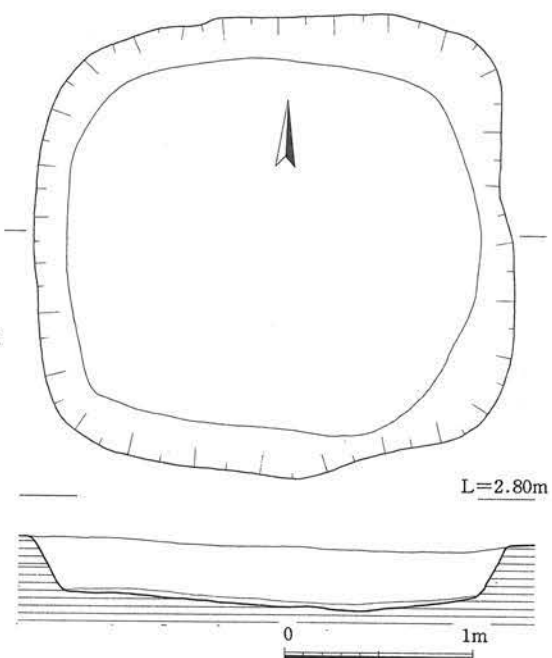


Fig. 6 SK018土坑実測図(S=1/40)

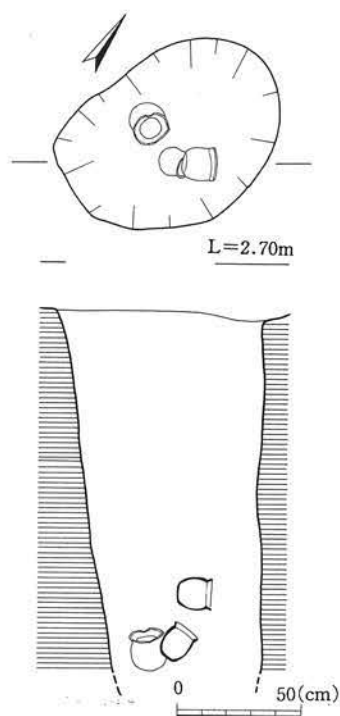


Fig. 9 SE047井戸実測図

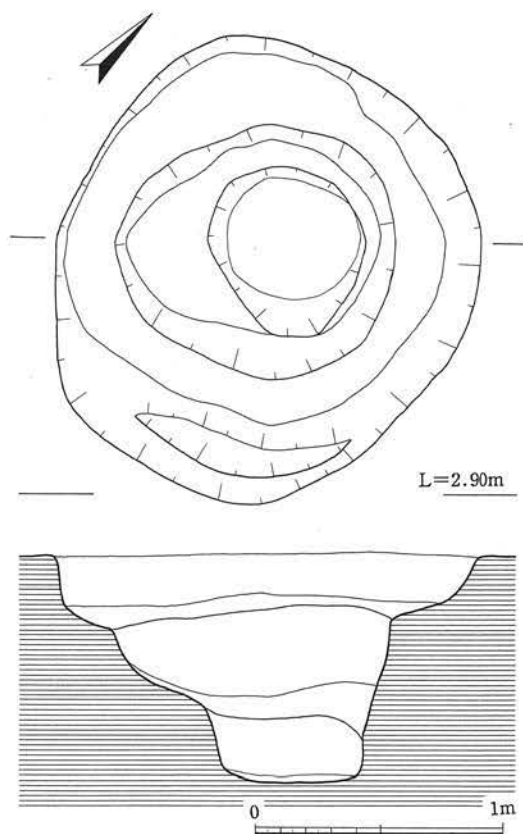


Fig. 8 SE030井戸実測図

SE030井戸 (Fig. 8)

C地区中央南寄りにあって、SD029・SK046が近接する。上面の平面形は南北にやや長い楕円形を基調とするものと考ええる。検出時の測定値は長軸1.87m、短軸1.64m、深さ0.91mを測る。3段掘りの様相を呈する素掘りの井戸と考える。上段のフローア一部は0.14m～0.33mを測り一周する。下段のフローアは北西部に偏る。上下段のフローアは水平ではなく、部分的にはかなり傾斜をもつ。

埋土は上層黒色土、中層黒褐色土、下層灰黒土の3層に大別できる。遺物は埋土全域から検出した。主な出土遺物には須恵器（坏・坏蓋、長頸壺）などがある。

SE047井戸 (Fig. 9)

C地区の中央南壁寄りにあって、SE019・SK048が近接する。上面の平面形は楕円形を基調とするものである。検出時の測定値は長軸0.92m、短軸0.67m、深さ約1.6m程度を示す。底面は検出できなかった。壁は四方とも直立気味に立ち上る。

埋土は上層黒色土、中層淡黒褐色土、下層灰褐色土の3層に大別できる。遺物は上・中層では細片のみの出土で、残存状況が良好なものは図中の3個体のみである。灰褐色土層からの検

出である。甕な出土遺物には土師器（甕形土器）がある。

遺物の出土状況からみて、井戸廃絶の際の祭祀行為があったものと推定する。

SD012・052溝

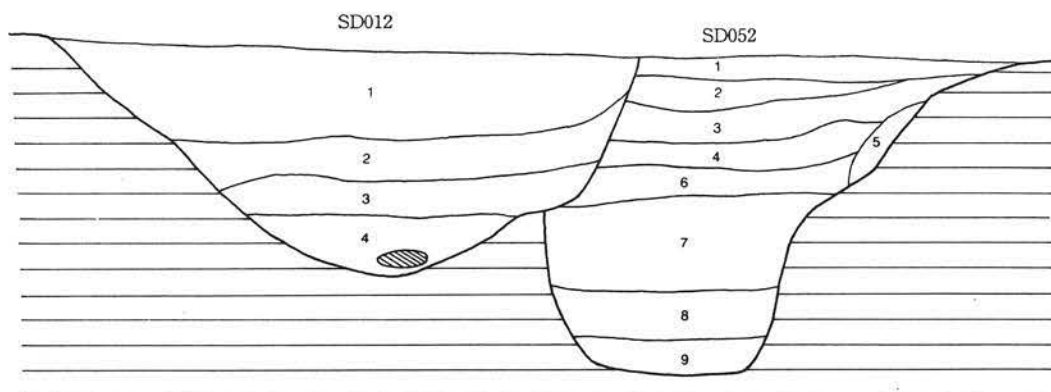
今回の調査で検出した溝の中で最も規模の大きいものである。調査開始時には同一の溝で、南北端に他遺構と切れ合い関係をもつものと認識していた。調査の結果、下図が示すように2つの溝が切れ合っていた。新しい溝をSD012、古いものをSD052とした。SD012で上面幅2.36m、最深部0.9m、SD052で最深部1.26mを測る。

埋土はSD012が4層、SD052が9層に分類でき、前者の3・4層、後者の7～9層から遺物を検出した。

出土遺物には土師器（坏）、木器などを検出した。これらの遺物から、この2条の溝は鎌倉時代から室町時代にかけての所産と考えられる。

溝の性格については、検出全長が約12m程度なので判断すべくもないが調査区の東・北・西にある現クリークの湧水期水位より、SD012・052溝の底面標高が高い数値を示すのでクリークからの導水としていたとは考え難い。

L=2.90m



SD012・052 溝土層図

1層	淡黄灰色土	4層	淡黒灰色土	7層	灰褐色土
2層	淡黒褐色土	5層	粘土ブロック	8層	淡黒灰色土（粘性に富む）
3層	同　　上	6層	淡黒灰色土	9層	灰褐色土

3. 遺 物

牟田寄遺跡（B・C・D地区）では弥生時代から中世に至る遺物を検出した。主な出土遺物には弥生土器（壺・甕・器台）、鏡、土師器（坏・皿・高坏・壺・甕）、須恵器（坏・高坏・壺・鉢）、瓦器（埴）、磁器（碗・皿）などがある。

1 から 9 は弥生土器。1 鉢。口径12cm、器高11cm。底部は丸味をもつが、完全な丸底ではない。

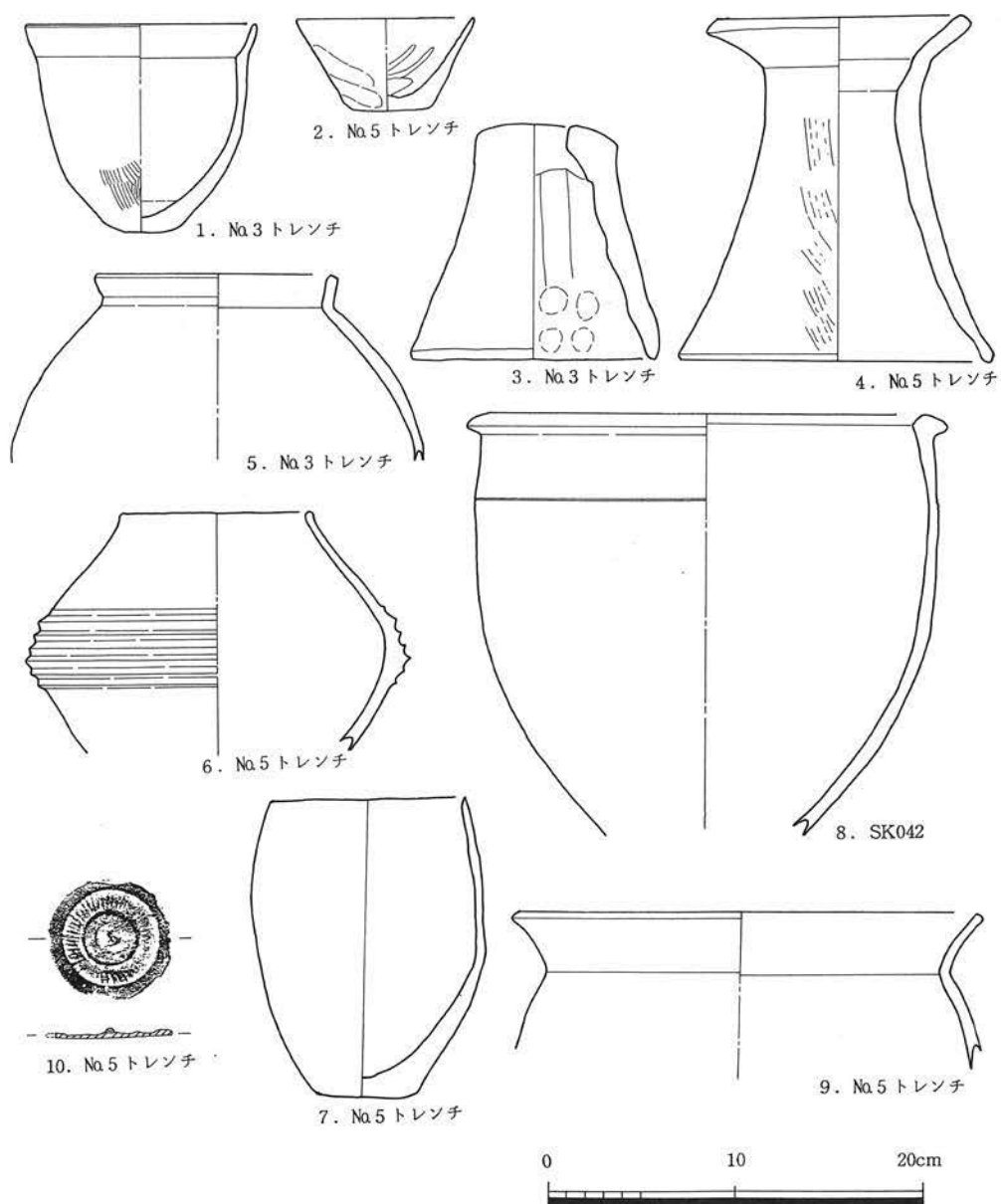


Fig.10 牟田寄遺跡出土遺物実測図（S=1/4）

体部は内湾気味に立ち上り、口縁部で角度を変えてさらに内湾する。調整はヨコナデ、ナデ、ハケ目を主とする。2は鉢。復元口径9.4cm、器高4.85cm、底径4.5cm。主な調整はナデとヨコナデ。3は支脚。底径12.8cm、器高12.4cm。主な調整はナデ、ヨコナデ、指腹による押圧、シボリ。4は器台。受部径12.8cm、器高18.3cm、脚部径16.5cm。受部と脚部の境界には稜を有する。受部内外面ヨコナデ、脚部外面ハケ目、ナデ、内面ナデ、ヨコナデを主なる調整とする。5は壺。口径12.3cm。下半部を欠失する。口縁部は短く、直立気味に立ち上る。胴部外面の一部に黒斑有。調整は主としてヨコナデとナデ。6は壺。復元口径10cm。最大径を胴部に有し、そこを中心として7条の突帯がめぐり。口縁部は内傾し、端部は丸味をもつ。ローリングが進んでいるが、ナデ、ヨコナデの調整がわずかに観察できる。7は壺。口径10.3cm、器高16.1cm、底径5.4cm。やや丸味を帯びた底部から内湾気味に立ち上り、底部から8cm程度で内傾し直線的にのびる。口縁端部は先鋭化する。ローリングが著しい。8・9は甕。8で復元口径23cm、外面口縁下部に沈線を有する。主な調整はナデとヨコナデ。9は甕。口径24.6cm。器外面にハケ目を有する。

11から15は土師器、11は小型丸底埴。口径8.2cm、器高7.4cm。調整は主としてナデとハケ目。12は鉢。口径12.6cm、器高9.1cm。調整はハケ目とナデ、ヨコナデによる。13も鉢。口径15.4cm、器高6.7cm。調整は外面、ヨコナデ、ハケ目、内面、口縁部ヨコナデ、胴部ナデとヘラミガキ。14・15は甕。14で口径15.4cm、15で口径16.4cm、器高23.7cm。最大径を胴部に有し、底部は丸底。頸部外面に強いヨコナデを有する。外面肩部にヘラ状工具による波状文を有し一周する。調整は外面ナデとハケ目、内面、ヨコナデ、ヘラケズリを主とする。

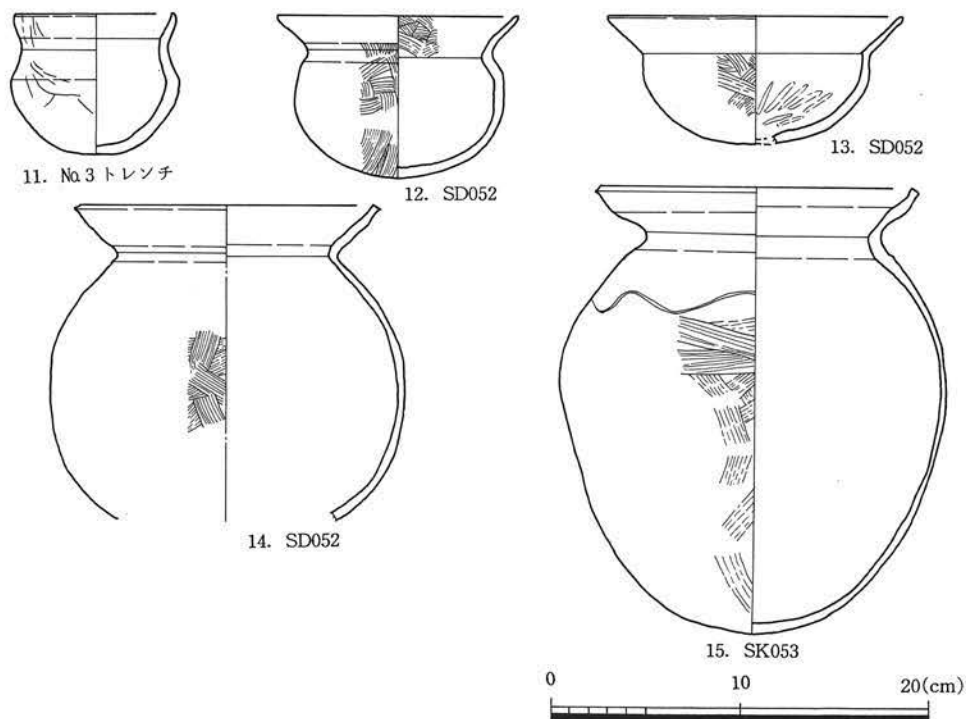


Fig. 11 牟田寄遺跡出土遺物実測図 (S=1/4)

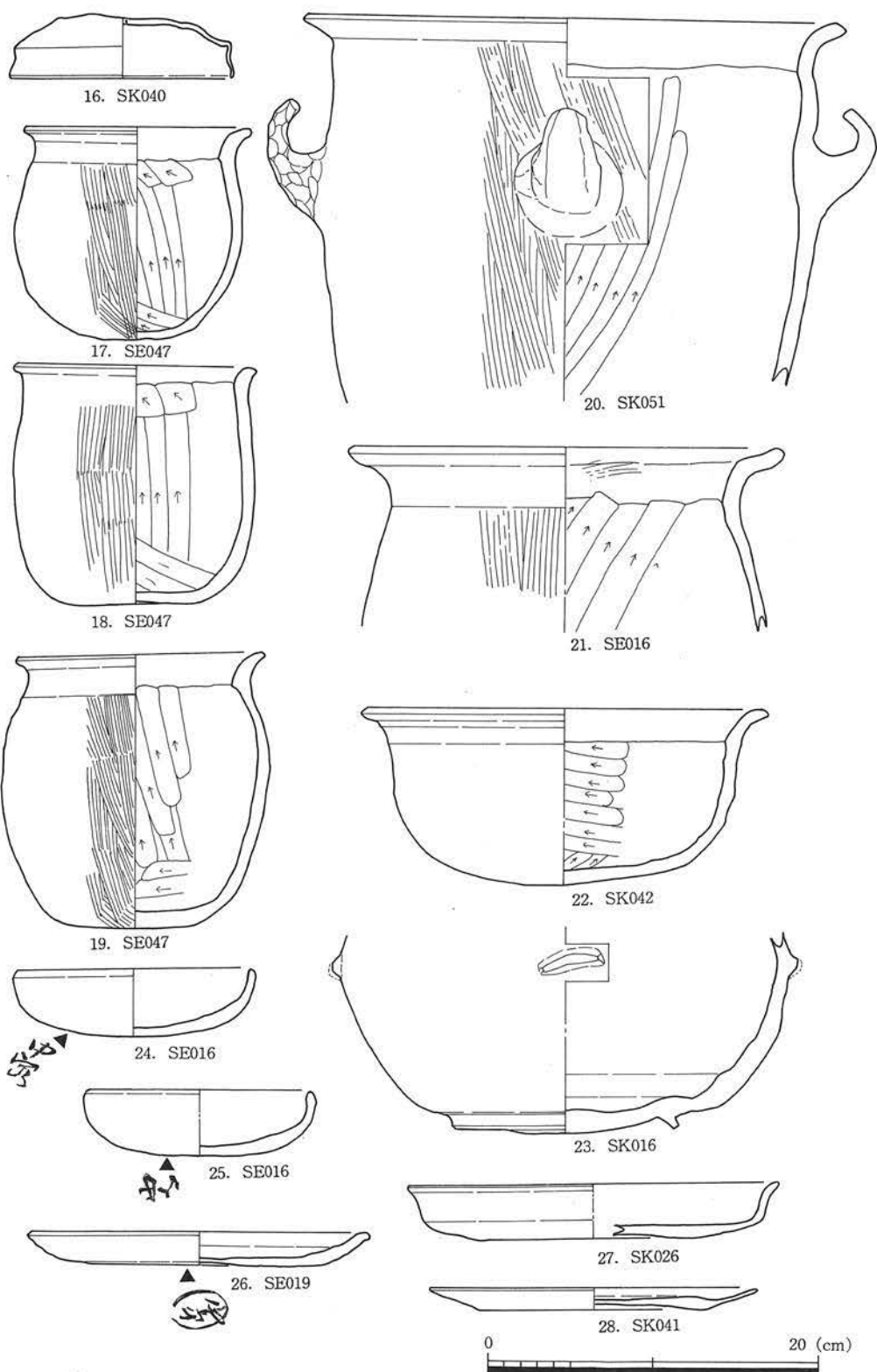


Fig. 12 牟田寄遺跡出土遺物実測図 (S=1/4)

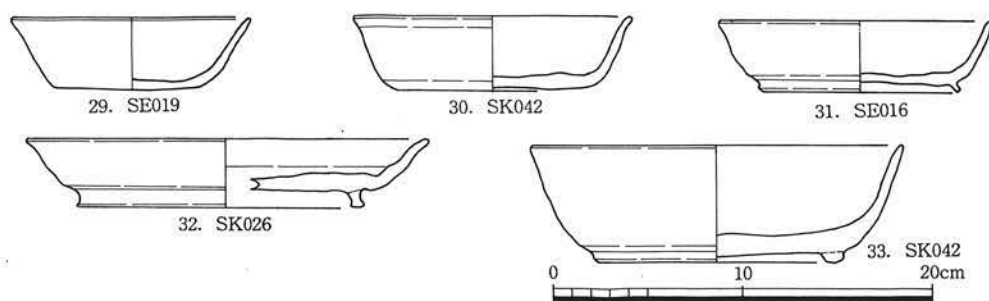


Fig. 13 牟田寄遺跡出土遺物実測図 (S=1/4)

16から28は土師器。16は坏(蓋)口径13.3cm、器高3.7cm。口縁部は湾曲しながらも、天井部から角度をもつてのびる。17から19は甕。口径13.3から15cm、器高12.9から15.6cm、底部は丸底のもの、平底に近いものがある。口縁部は短く厚い器壁をもち外反する。調整は主として外面ハケ目、内面ヨコナデ、ヘラケズリ。20は甗。口径32cm。口縁部は短く外反する。調整は外面ハケ目、内面ヨコナデとヘラケズリを主とする。21は甕。口径24.5cm。口縁部はゆるやかに外反する。調整は主として外面、ヨコナデ、ハケ目、内面、ハケ目、ヨコナデ、ヘラケズリによる。22は復元口径23.6cm、器高10.7cm。調整は外面ナデ、ヨコナデ、内面ヨコナデ、ヘラケズリ、指腹による押圧。上半部を欠失する。高台径13cm。把手は2か所にある。24から28は坏。24・25・26に墨書を有する。24・25で口径13.2・14cm。器高4.2・4cm。26から28で口径19.5から22cm。器高1.5から3cm。調整は主としてナデとヨコナデ。

29から33は土師器坏。29・30で口径12.45・12.6cm、器高3.8・3.9cm、底径7.9・11.4cm。底面外部にヘラ切り痕を有する。31は高台付坏。口径14.1cm、器高3.8cm、高台径10.1cm。口縁部は比較的角度をもって立ち上る。32も高台付坏。口径21cm、器高3.6cm、高台径14.9cm。口縁部は長く外にひらく。33は口径19.4cm、器高6.2cm、高台径12.4cm。口縁部は長く、角度をもって立ち上る。

34から57は須恵器。34は口径10.3cm、器高4.45cm、口縁部は短く内傾する、35・36は輪状紐を有する坏(蓋)。口径15.1・17.2cm、器高3・2.2cm、紐径4.4・5.15cm。輪状紐から1cm程度の範囲で回転ヘラケズリを有する。37から41は疑宝珠を有する坏蓋。口径12.8から19.2cm。口縁端部が丸みをもつものとやや先鋭化するものがある。41は器外面に自然釉を有する。42は無紐の蓋。口径14.9cm、器高2.35cm。天上部外面に回転ヘラケズリ痕を有する。口縁部の返りは無い。器外面に墨書を有する。43から50は坏。45から47で口径口、8から15.9cm、器高2.8から3.9cm、底径8.4から9.4cm、45・46の底部外面に墨書有。42・47にはヘラ記号有。48から51で口径15.8から20.6cm、器高2.2から3.1cm、底径13.2から16.6cm。器高が低く口径が多きい一群である。48・50・51は器外面底部に墨書有。49にはヘラ記号有。52から55は高台付坏。口径13.9から18.8cm、器高4.1から6.6cm、高台径8.75から16.1cm。54の底部外面にヘラ記号と墨書有。56・58は鉢。56で口径20.4cm、器高10cm。体部は内湾しながら立ち上り、口縁部で「逆

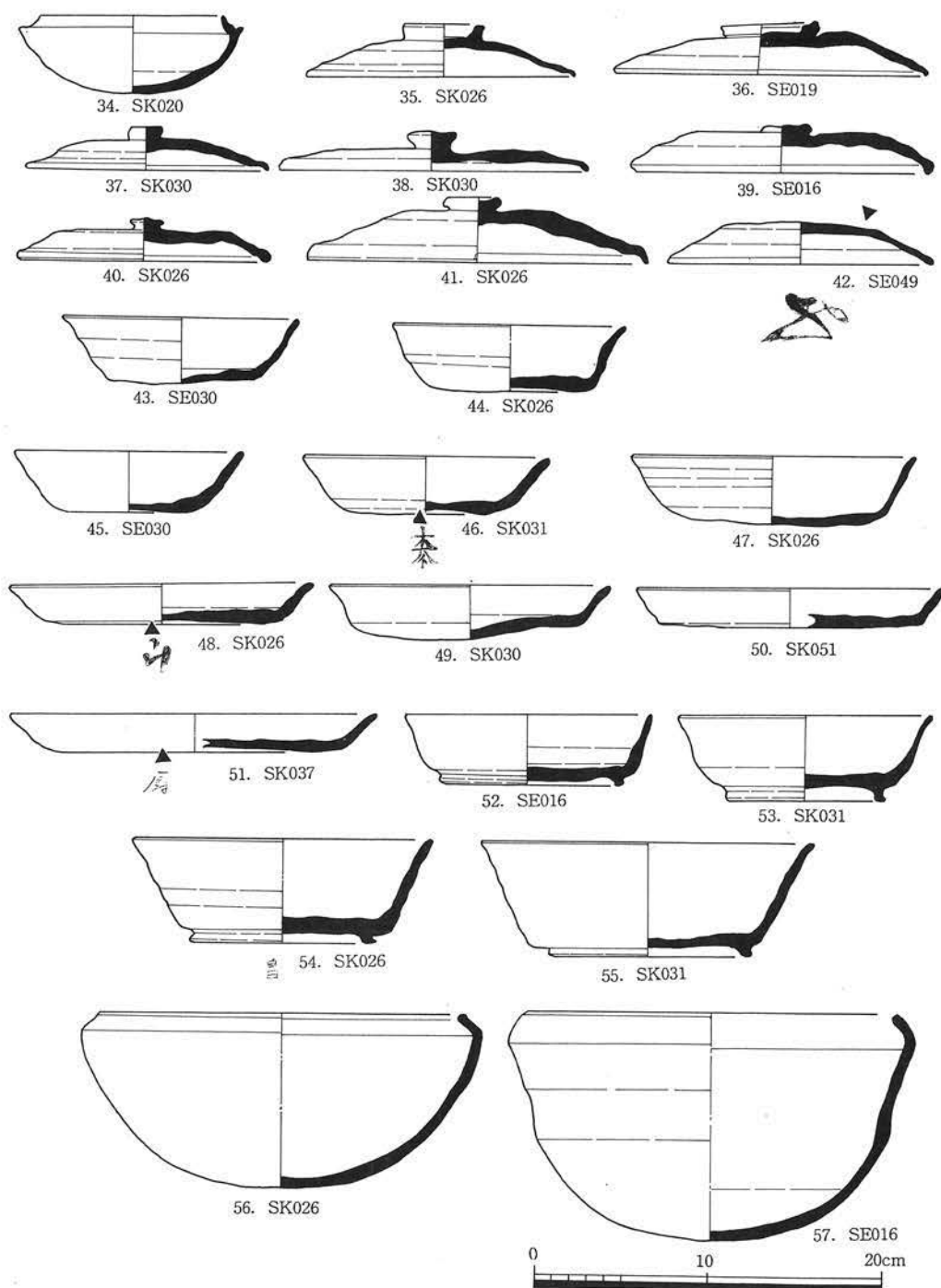


Fig. 14 牟田寄遺跡出土遺物実測図 (S=1/4)

く」の字状に内傾する。57で口径21cm、器高13cm。56よりも法量が大きく、口縁部はゆるやかに内傾する。

58から63は須恵器。58は高台付壺。口径11cm、器高5.1cm、底径6.9cm。内面の口縁部と体部

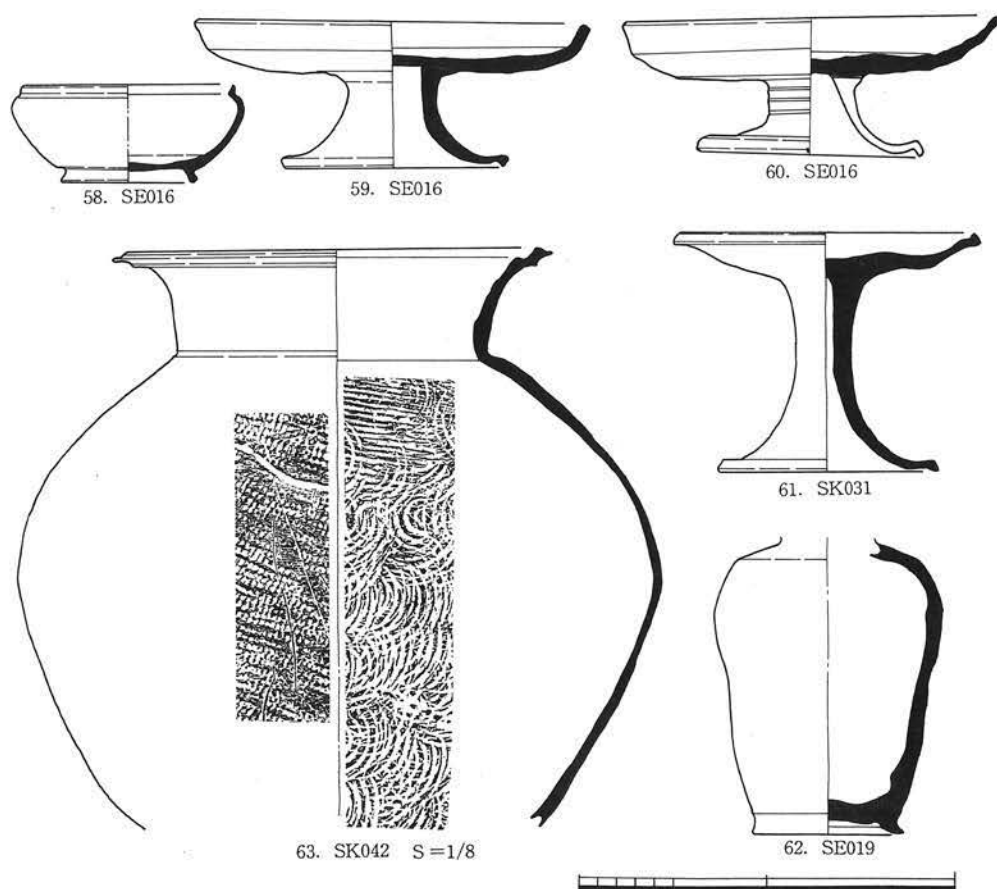


Fig. 15 牟田寄遺跡出土遺物実測図 (S=1/4)

の境界に稜を有する。59から61は高杯。59・60で受部径20.3・19.4cm、器高7.9・7.6cm、脚径10.5・11.6cm。59の口縁部は平坦な坏部から短くゆるやかに立ち上る。60は口縁部と底部の境界が不明確。61は坏部径15.5cm、器高10.6cm、脚径11.4cm。坏部は平坦で、口縁端部は断面三角形を呈する。脚部に三条の沈線がめぐる。62は高台付の壺と考える。高台径7.8cm。外面肩部に墨書を有する。文字不明。胴部外面は回転ヘラケズリを施している。色調は淡黄褐色を呈す。63は甕。口径56.3cm。最大径を胴部に有し、口縁部は外反する。口縁外面に波状を有する。

64から74は土師器小皿。64から68、69から71,72,73,74の4郡に分けられる。64から68で口径7.8から9.2cm、器高1.5から2.05cm、底径6から6.8cm。口縁部は短く内湾気味、外面底部に糸切痕を有する。69から71は口径8.1から9.5cm、器高2.3から3.5cm、底径5.0から6.3cm。口縁部は比較的長く、内湾しながら立ち上る。底部外面には糸切り痕を有する。72・73は口径6.4・7cm、器高2.3cm、底径3.1・3cm、口縁部は比較的薄い。底部外面に糸切り痕を有する。74は口径11.95cm、器高3.25cm、底径4.4cm。口縁部はゆずかに外反する。法量に比して器壁が薄い。75から79は坏。口径12.6から14.3cm、器高3.25から4.1cm、底径7.1から9cm。底部外面に糸切り痕を有する。80から83は瓦器碗。口径16.4から17.2cm、器高6.3から6.9cm、底径5.5から6.3

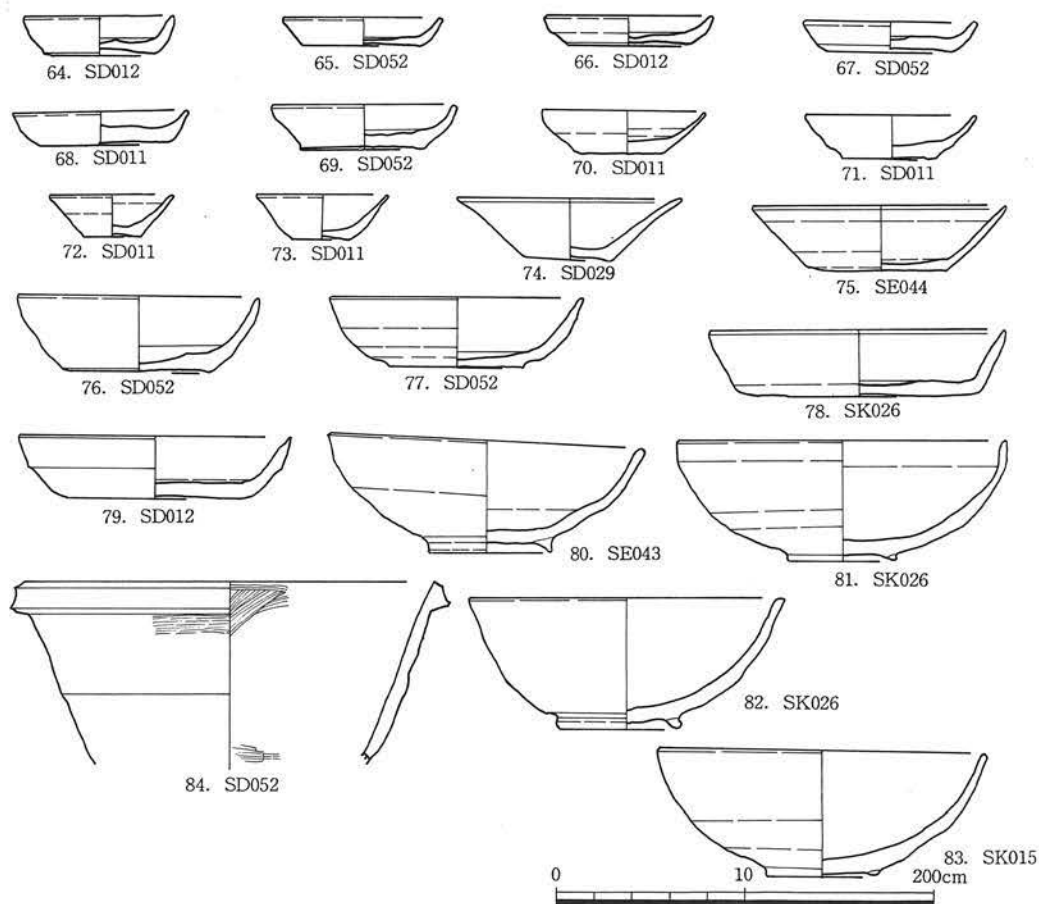


Fig.16 牟田寄遺跡出土遺物実測図 (S=1/4)

cm. 全体的に雑な調整である。一部にヘラミガキが観察できるものもある。84は土師質土器の鉢、復元口径21cm、調整はナデ、ヨコナデ、ハケ目を主体とする。外面の一部にスス着付。85から89は磁器。85・86は青磁碗。口径16.5・15.7cm、器高7・6.5cm、高台径5.25・4.7cm。内面に草花文を配する。87は口径16.2cm。器壁は薄く、わずかに内湾しながら立ち上り、口唇部は短く外反する。88・89青磁小皿。88で口径10.55cm、器高3cm、高台径4.7cm。畳付部以内は露胎。色調は暗緑色で釉は薄い。89で口径12.3cm、器高3.55cm、高台径5.2cm。体部はわずかに内湾しながら立ち上り、口縁部は短く外反する。器壁の厚さの割りには釉の厚さが0.1cm程度と厚い。畳付部と高台内部は露胎。色調は淡緑色で、比較的大きい貫入がある。90から92は陶器碗。口径10.95cm、器高5.55cm、高台径3.2cm。体部は内湾しながら立ち上り、口縁部で角度を変え短く外反する。器外面下部から高台内部にかけて露胎、釉は灰白色系の下地に淡黒褐色の施釉、内外面共に細い貫入を有する。91は口径11.2cm、器高6.3cm、高台径3.75cm。釉は外面下半部までかかる。色調は淡緑灰色で細い貫入がある。92は復元口径12.35cm、器高7cm、高台径4.2cm。釉は外面下半部までかかる。色調は淡灰黒色。施文は黒褐色。全体的に貫入を有する。

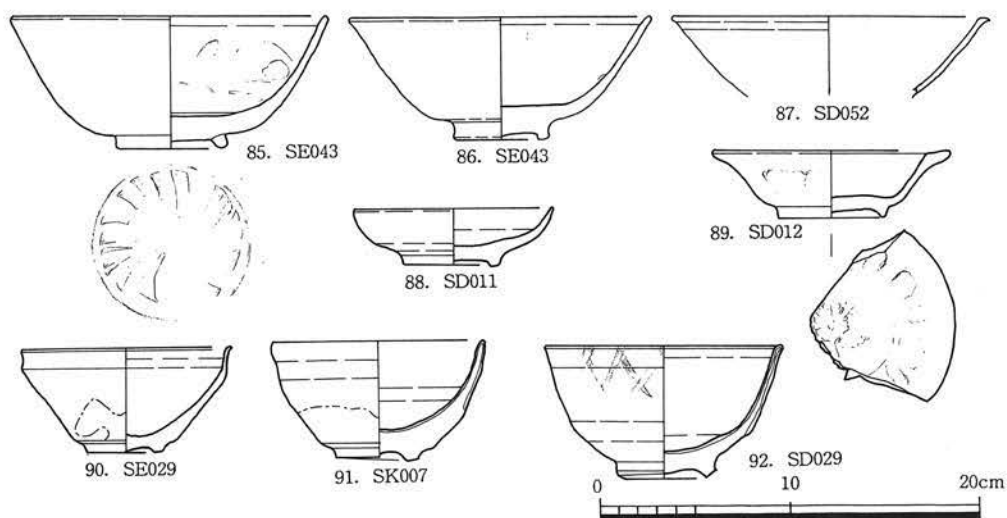


Fig. 17 牟田寄遺跡出土遺物実測図

Ⅳ 小 結

牟田寄遺跡はその範囲内に貝塚があることは古くから知られていた。しかし、正式な調査例はなく、今回のそれが初めてのものになった。本調査調査区は集落の北辺（A・B・C地区）と東南端（D地区）である。このうち、B・C・D地区を当該事業の対象とした。D地区については、溝、小穴を検出したが、昭和20年代から昭和30年代にかけてと思われる攪乱をうけており、特筆すべき成果はあげられなかった。B・D地区は弥生時代から室町時代に営まれた集落の縁辺部ということができ、検出遺構には井戸・土壇・溝・小穴等がある。このうち、弥生時代の遺構はC地区で土壇一基しか検出していない。B地区で弥生土器は多量に出土したが、中世のある時期に整地をうけているような状況にあり、遺構は検出しなかった。古墳時代の遺構は2から3基の土壇があったと考えるが、奈良時代から室町時代の溝・土壇に削平され、遺物の収集に終わっている。C地区古墳時代の遺構として明確なものとしてはSK053土壇がある。これは8世紀代の所産と考えられるSK042土壇に掘込みの大半を切られており、遺物（土師器甕）と遺構の西側掘込みラインのわずかなふくらみ具合で古墳時代の遺構と認定した。他はB地区SD012溝埋土下層から土師器甕が出土したので、B・C地区に点在していたものらしい。

奈良時代の遺構としてはB地区SK051、C地区SK016・026・042などがある。これらの遺構は上面の平面形は楕円形を基調とし、一見大型の井戸のように見うけられる。しかし、掘方が有明海粘土層（青灰色粘土層）まで及んでおらず、深さは1～1.2m程度を測る。性格については確定のできる資料ではないが、投棄されたような遺物の出土状況から判断するとゴミ棄て場の性格をもつものか。

鎌倉時代の遺構としては土壇、井戸、溝などがある。土壇についてはSK015のように何らか

の意図をもって瓦器碗、土師器小皿を埋納したものや、SK018、040のように比較的規画性も持つものなどがあるが、その性格については不明。溝はB地区SD052、012が最も規模が大きく、出土遺物も多量に検出した。しかしながら全容が不明なのでその位置付けはできなかった。

今回の調査は遺跡の断片的調査に加え、遺物の取り上げ方法に反省する点がある。今後は層位別の遺物取り上げを検討する必要がある。

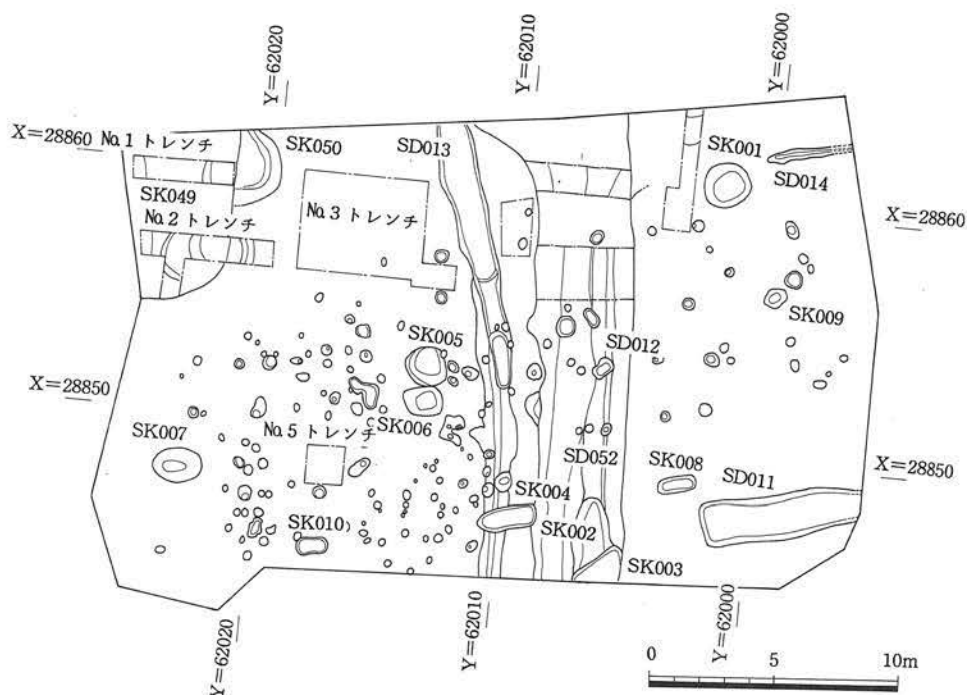


Fig. 18 牟田寄遺跡B地区遺構配置図



Fig. 19 牟田寄遺跡 C 地区遺構配置図

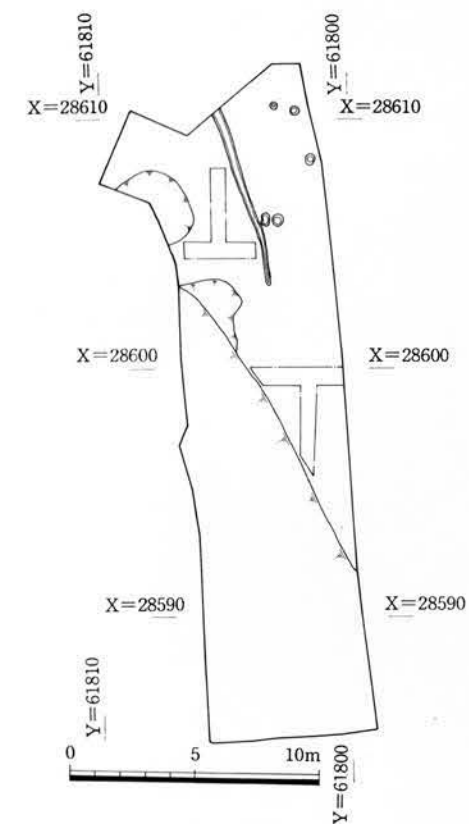
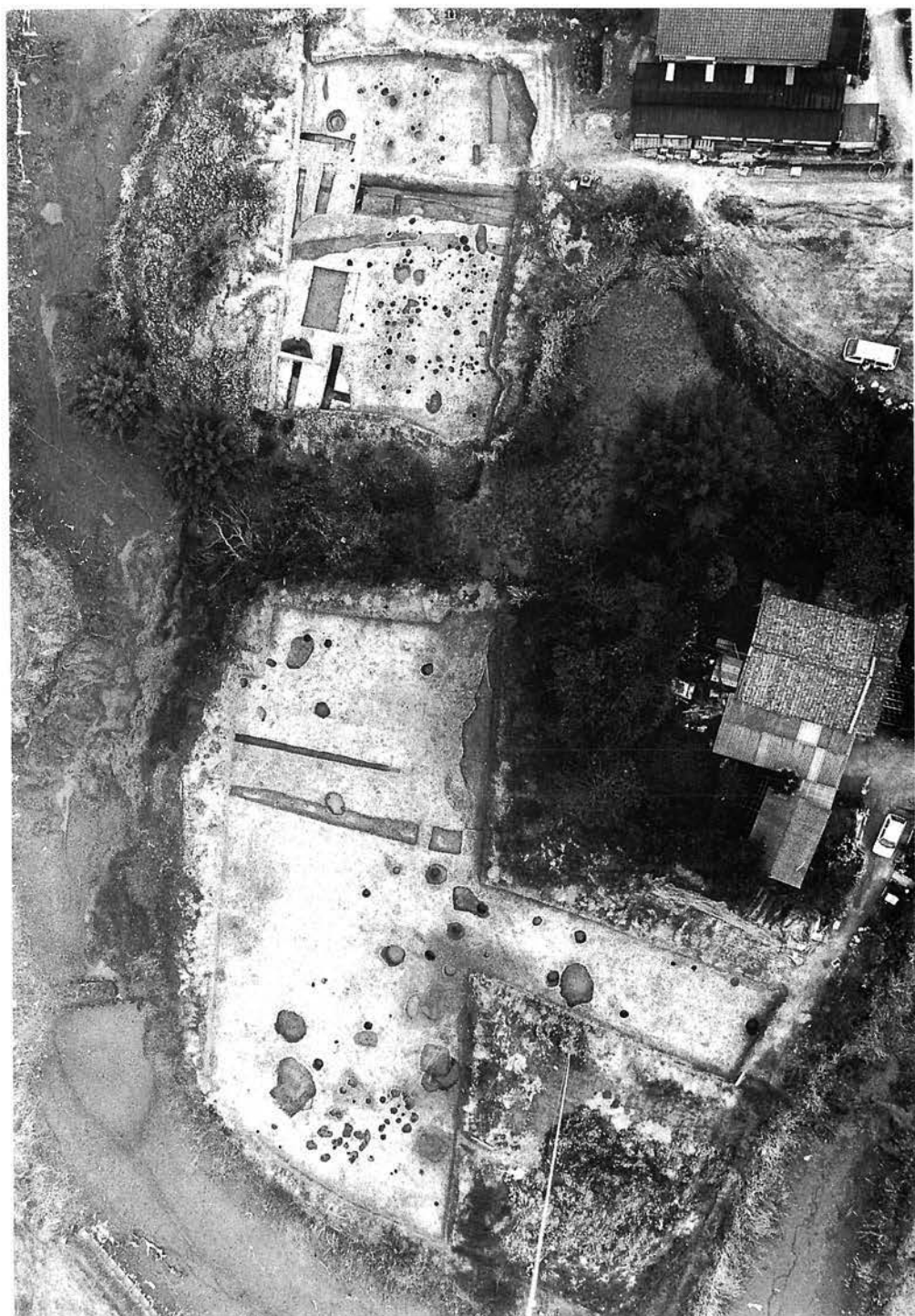
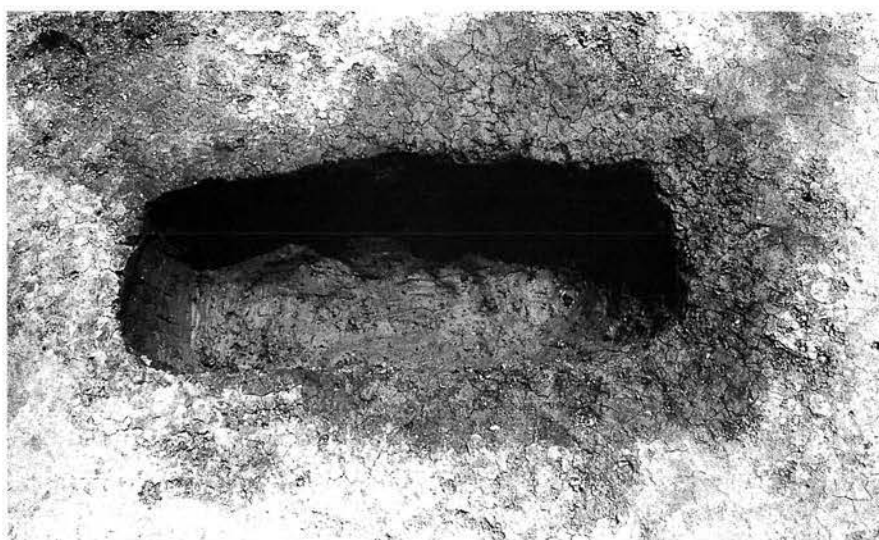


Fig. 20 牟田寄遺跡
D 地区遺構配置図



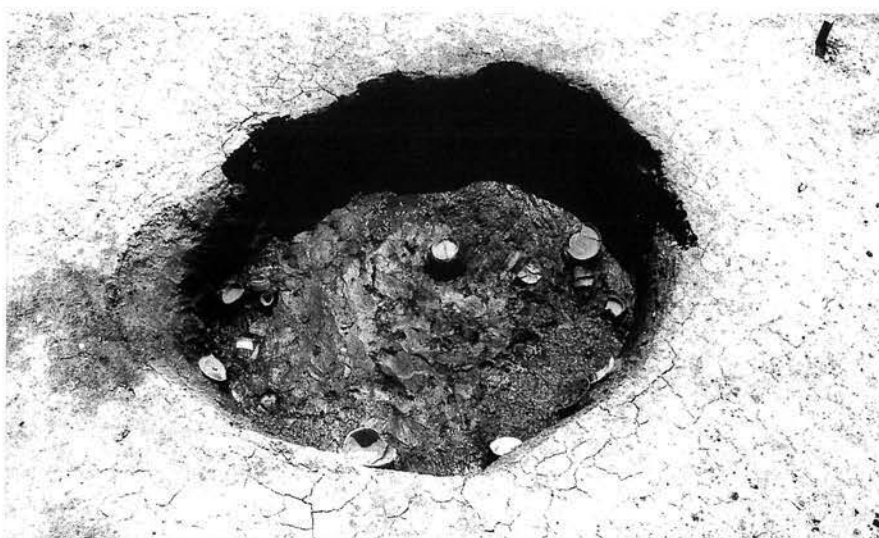
牟田寄遺跡（B・C地区）全景



2. SK008土壤



3. SK015土壤



4. SK016土壤



5. SK016土坑
遺物出土狀況



6. SK018土坑



7. SK042土坑



8. SK042土器遺物出土状況



9. SE030井戸



10. SE047井戸、遺物出土状況



11. SD029・024溝



12. SD012・052溝(南から)



13. 同(北から)



14. No.5トレンチ遺物出土状況



15. 発掘作業状況

牟田寄遺跡 (B・C地区) 収蔵品目録

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
MTY・B-001	小皿	土師器	鎌倉	75	口径8.3 底径7.2 器高1.3	S K 001	1989.10	9-39	-	1	A
B-002	碗	白磁	鎌倉	不明	口径— 高台径6.4 器高2.3 推 残	S K 001	1989.10	9-40	-	1	B
B-003	銭	青銅製品	鎌倉	完形	外径2.5 穿幅7.7	S K 001	1989.10	12-63	-	1	A
B-004	小皿	土師器	鎌倉	85	口径8.1 底径6.6 器高1.8	S K 003	1989.10	9-44	-	1	A
B-005	坏	土師器	鎌倉	20	推 口径14.2 底径8.8 器高3.2	S K 003	1989.10	9-43	-	1	B
B-006	鉢	土師器	鎌倉~室町	25	推 口径25.9 底径20.0 器高6.5	S K 004	1989-10	13-53	-	1	B
B-007	碗	青磁	鎌倉~室町	不明	口径— 高台径5.6 器高3.8 推	〃	1989.10	9-60	-	1	B
B-008	〃	陶器	室町~江戸	80	口径11.2 底径3.8 器高6.3	S K 007	1989.08	12-58	18-91	1	A
B-009	甕	弥生土器	弥生	不明	推 口径26.1 底径— 器高8.3	S K 009	1989.11	13-47	-	1	B
B-010	〃	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径8.6 器高5.4 推	〃	1989.10	13-48	-	1	B
B-011	小皿	土師器	鎌倉	ほぼ完形	口径7.0 底径3.0 器高2.3	S D 011	1989.08	12-55	16-73	1	A
B-012	小皿	〃	鎌倉	80	口径8.1 底径3.5 器高2.3	〃	1989.08	12-56	16-70	1	A
B-013	小皿	〃	鎌倉	70	口径9.2 底径6.8 器高1.8	〃	1989.08	12-57	16-68	1	A
B-014	小皿	〃	鎌倉	75	口径6.4 底径3.1 器高2.3	〃	1989.08	11-61	16-72	1	A
B-015	小皿	〃	鎌倉	50	口径8.9 底径5.0 器高2.3	〃	1989.08	11-62	16-71	1	B
B-016	皿	青磁	鎌倉~室町	60	口径10.6 底径4.7 器高3.0	〃	1989.08	12-54	18-88	1	A
B-017	坏	土師器	鎌倉~室町	40	口径14.3 底径9.0 器高3.3 推	S D 012	1989.10	6-23	16-79	1	A
B-018	小皿	〃	鎌倉	50	口径9.2 底径6.8 器高1.6	〃	1989.10	-	-	1	B
B-019	碗	青磁	鎌倉	不明	口径不明 高台径6.4 器高3.2 推	〃	1989.10	9-49	-	1	B

牟田寄遺跡 (B・C地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出 土 年 月	実測図番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
MTY・B -020	碗	青 磁	鎌倉	不明	口径不明 高台径4.4 器高2.5 推	S D 012	1989.10	10-51	—	1	B
B-021	小皿	土師器	鎌倉	ほぼ完形	口径7.8 底径6.0 器高2.1	S D 012	1989.10	10-42	16-64	1	A
B-022	小皿	土師器	鎌倉	50	口径8.7 底径6.8 器高1.5	S D 012	1989.10	10-45	16-66	1	A
B-023	皿	青 磁	鎌倉～室町	30	口径12.3 高台径5.6 器高3.6 推	S D 012	1989.10	13-50	18-89	1	
C-024	小皿	土師器	鎌倉～室町	98	口径9.3 底径8.3 器高1.2	S K 015	1989.09	14-1	—	1	A
C-025	〃	〃	鎌倉～室町	90	口径8.4 底径7.0 器高1.3	〃	1989.09	14-2	—	1	A
C-026	坏	〃	鎌倉～室町	70	口径13.3 底径9.7 器高3.2	〃	1989.09	14-6	—	1	A
C-027	〃	〃	鎌倉～室町	70	口径13.8 底径10.2 器高2.7	〃	1989.09	14-7	—	1	A
C-028	瓦	器	鎌倉	不明	口径8.0 底径— 器高5.0	〃	1989.09	14-3	—	1	B
C-029	〃	〃	鎌倉	95	口径17.0 高台径5.7 器高6.8	〃	1989.09	14-4	16-83	1	A
C-030	〃	〃	鎌倉	90	口径17.1 高台径5.8 器高7.0	〃	1989.09	14-5	—	1	A
C-031	坏	土師器	奈良	70	口径14.0 底径— 器高4.2	S E O 16	1989.09	31-90	12-24	1	A
C-032	〃	〃	奈良	35	口径21.0 底径— 器高4.0	〃	1989.09	31-91	12-25	1	A
C-033	鉢	〃	奈良	30	口径21.0 底径— 器高13.0	〃	1989.09	31-92	14-57	1	A
C-034	高台付鉢	〃	奈良	不明	口径— 高台径13.0 器高13.2 推	〃	1989.09	31-93	12-23	1	A
C-035	甕	〃	奈良	不明	口径24.4 底径— 器高6.0 残	〃	1989.09	34-106	—	1	B
C-036	高台付坏	〃	奈良	70	口径14.1 高台径10.0 器高3.8 推	〃	1989.09	34-110	13-31	1	A
C-037	鍋	〃	奈良	20	口径36.3 底径26.2 器高14.5 推	〃	1989.09	35-112	—	1	B
C-038	甕	〃	奈良	不明	口径25.4 底径— 器高11.0 推	〃	1989.09	38-122	12-21	1	A

牟田寄遺跡 (B・C地区) I種

番 号	名 称	種 別	時代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
MTY・C -039	高 坏	須恵器	奈良	70	口径19.4 底径11.6 器高7.6	〃	1989.09	30-87	15-60	1	A
C-040	高台付坏	〃	奈良	50	口径14.0 高台径5.5 器高4.1 推	〃	1989.09	30-94	-	1	B
C-041	高 坏	須恵器	奈良	95	口径20.3 底径10.5 器高7.9	S K 016	1989.09	34-107	15-59	1	A
C-042	高台付坏	土師器	奈良	70	口径13.9 高台径9.7 器高4.1	S K 016	1989.09	34-108	14-52	1	A
C-043	高台付壺	須恵器	奈良	40	口径11.0 高台径6.7 器高5.1	S K 016	1989.09	34-109	15-58	1	A
C-044	蓋	須恵器	奈良	80	口径16.6 鈕径2.1 器高2.8	S K 016	1989.09	35-111	14-39	1	A
C-045	蓋	須恵器	奈良	85	口径15.9 鈕径2.6 器高1.6	S K 016	1989.09	-	-	1	A
C-046	蓋	須恵器	奈良	ほぼ完形	口径15.4 鈕径2.4 器高1.2	S K 016	1989.09	-	-	1	A
C-047	蓋	須恵器	奈良	65	口径16.2 鈕径2.6 器高2.4	S K 016	1989.09	-	-	1	B
C-048	蓋	須恵器	奈良	60	口径16.4 鈕径2.6 器高2.8	S K 016	1989.09	-	-	1	B
C-049	蓋	須恵器	奈良	60	口径15.8 鈕径1.9 器高2.9	S K 016	1989.09	-	-	1	B
C-050	高台付坏	土師器	奈良	不明	口径14.2 底径8.9 器高2.3 推	S E 017	1989.09	26-77	-	2	B
C-051	甕	土師器	奈良	不明	口径25.2 底径- 器高6.0 推	S E 017	1989.09	37-120	-	2	B
C-052	坏	土師器	奈良	60	口径12.8 底径7.8 器高3.1	S E 017	1989.09	-	-	2	B
C-053	小皿	土師器	鎌倉	25	口径9.1 底径7.8 器高1.3	S K 018	1989.09	22-44	-	2	B
C-054	坏	土師器	〃	80	口径14.2 底径8.9 器高2.9	S K 018	1989.09	22-45	-	2	A
C-055	小皿	土師器	〃	ほぼ完形	口径8.1 底径6.7 器高1.3	S K 018	1989.10	26-75	-	2	A
C-056	皿	土師器	〃	30	口径8.6 底径6.7 器高1.3	S K 018	1989.09	22-43	-	2	B
C-057	坏 (墨書)	土師器	奈良	完形	口径20.2 底径14.5 器高2.2	S E 019	1989.09	18-27	12-26	2	A

牟田寄遺跡 (B・C地区) I種

番 号	名 称	種 別	時代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 図番号	コンテナ番号	A・Bの別
MTY・C -058	坏	土師器	奈良	80	口径12.5 底径4.7 器高3.8	S E 019	1989.09	26-76	—	2	A
C-059	坏	土師器	奈良	90	口径6.3 底径7.9 器高3.8	S E 019	1989.09	32-125	13-29	2	A
C-060	蓋	須恵器		不明	口径20.1 底径— 器高—	S E 019	1989.09	26-78	—	2	B
C-061	蓋	須恵器	奈良	50	口径17.2 紐径5.2 器高2.9	S E 019	1989.09	28-79	14-36	2	A
C-062	蓋	須恵器	奈良	55	口径 底径10.8 器高3.6	S E 019	1989.09	28-81	—	2	B
C-063	蓋	須恵器	奈良	50	紐径2.2 底径16.0 器高2.8	S E 019	1989.09	29-84	—	2	B
C-064	鉢	須恵器	奈良	不明	推 口径19.0 底径— 器高10.7	S E 019	1989.09	30-86	—	2	B
C-065	坏 (墨書)	須恵器	奈良	不明		S E 019	1989.11	29-85	—	2	B
C-066	壺	須恵器	奈良	不明	口径— 底径7.8 器高—	S E 019	1989.09	29-83	15-62	2	A
C-067	甕	土師器	古墳	不明	推 口径19.4 底径— 器高9.3 残	S K 020	1989.09	33-117	—	2	B
C-068	高坏	土師器	古墳	不明	口径— 底径7.0 器高3.4 残	S K 020	1989.09	33-103	—	2	B
C-069	坏	須恵器	古墳	50	口径10.3 丸底 器高4.5	S K 020	1989.09	22-42	14-34	2	A
C-070	紡錘車	滑石製品	不明	ほぼ完形	上底3.5 下底4.1 器高1.2	S K 021	1989.09	22-50	—	2	A
C-071	甕	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径8.5 器高7.4 残	S E 023	1989.09	33-100	—	2	B
C-072	小皿	青 磁	鎌倉	90	口径9.5 底径3.8 器高2.6	S E 023	1989.09	33-57	—	2	A
C-073	蓋	須恵器	奈良	不明	口径9.2 器高2.7	S D 024	1989.09	22-46	—	2	B
C-074	碗	青 磁	鎌倉~室町	不明	口径15.4 器高4.5 残	S D 024	1989.09	22-48	—	2	B
C-075	坏	土師器	奈良	55	口径15.9 底径9.4 器高3.9	S K 026	1989.09	21-40	14-47	2	A
C-076	坏	土師器	奈良	50	口径15.3 底径8.0 器高3.5	S K 026	1989.09	22-41	16-78	2	B

牟田寄遺跡 (B・C地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	美濃図番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
MTY・C -077	高 坏	土 師 器	奈良	95	口径12.8 底径7.8 器高3.5	S K 026	1989.09	20-34	—	2	A
C-078	高坏 (坏のみ)	土 師 器	奈良	不明	口径28.0 脚径— 残 器高5.3	S K 026	1989.10	18-26	—	2	B
C-079	高台付坏	土 師 器	奈良	65	口径21.0 高台径14.9 器高3.6	S K 026	1989.10	17-24	13-32	2	A
C-080	坏	土 師 器	奈良	30	口径22.0 底径20.5 器高3.3	S K 026	1989.09	16-18	12-27	2	B
C-081	高坏	須 恵 器	奈良	60	口径16.8 高台径10.0 器高7.0	S K 026	1989.10	15-12	14-54	2	A
C-082	蓋	須 恵 器	奈良	70	口径19.2 鈕径2.85 器高3.7	S K 026	1989.10	15-13	14-41	2	A
C-083	坏	須 恵 器	奈良	55	口径13.0 底径9.0 器高2.8	S K 026	1989.09	15-16	14-44	2	B
C-084	坏	須 恵 器	奈良	70	口径17.0 底径13.5 器高2.4	S K 026	1989.10	16-14	14-48	2	A
C-085	坏	須 恵 器	奈良	不明	口径— 底径15.0 器高2.2 残	S K 026	1989.10	16-15	—	2	B
C-086	蓋	須 恵 器	奈良	30	口径17.2 鈕径2.2 器高2.5	S K 026	1989.9	17-20	—	2	B
C-087	蓋	須 恵 器	奈良	40	口径14.0 鈕径1.9 器高2.5	S K 026	1989.10	17-21	14-40	2	A
C-088	高台付坏	須 恵 器	奈良	30	口径15.8 高台径9.0 器高4.9	S K 026	1989.10	17-22	14-56	2	A
C-089	鉢	須 恵 器	奈良	40	口径20.4 底径— 器高10.0	S K 026	1989.10	17-23	—	2	B
C-090	高坏	須 恵 器	奈良	不明	口径— 脚径11.8 器高12.7	S K 026	1989.10	17-25	—	2	B
C-091	蓋	須 恵 器	奈良	55	口径15.1 鈕径4.4 器高3.0	S K 026	1989.09	21-39	14-35	2	A
C-092	坏	瓦 器	鎌倉	75	口径17.2 高台径5.5 器高6.4	S K 026	1989.10	15-10	16-81	2	A
C-093	坏	瓦 器	鎌倉	65	口径16.5 高台径6.3 器高6.9	S K 026	1989.10	15-11	16-82	2	A
C-094	小皿	土 師 器	鎌倉	40	口径12.0 底径4.4 器高3.3	S D 029	1989.09	26-71	16-74	3	A
C-095	鉢	土師質土器	鎌倉	不明	口径— 底径— 器高—	S D 029	1989.09	26-74	—	3	B

牟田寄遺跡 (B・C地区) I 種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
MTY・C -096	鉢	須恵器	奈良	不明	口径28.2 底径—	器高—	S D 029	1989.09	29-80	—	3	B
C-097	碗	磁器	鎌倉	不明	口径— 高台径5.6	器高2.1 残	S D 029	1989.09	26-72	—	3	B
C-098	碗	陶器	室町	80	口径11.0 底径3.2	器高5.6	S D 029	1989.09	25-68	18-90	3	A
C-099	碗	陶器	室町~江戸	25	口径12.4 底径4.2	器高7.0	S D 029	1989.09	25-70	18-92	3	A
C-100	坏	須恵器	奈良	ほぼ完形	口径15.8 底径13.2	器高3.1	S E 030	1989.09	19-31	14-49	3	A
C-101	高台付坏	須恵器	奈良	25	口径14.0 底径8.4	器高4.7	S E 030	1989.09	19-35	—	3	B
C-102	蓋	須恵器	奈良	完形	口径13.8 鈕径1.7	器高2.5	S E 030	1989.09	19-36	14-37	3	A
C-103	坏	須恵器	奈良	95	口径12.8 底径7.8	器高3.5	S E 030	1989.09	20-33	14-45	3	A
C-104	蓋	須恵器	奈良	90	口径17.3 鈕径2.5	器高2.3	S E 030	1989.09	21-37	14-38	3	A
C-105	甕	須恵器	奈良	不明	口径61.4 底径— 推	器高15.7 残	S E 030	1989.09	35-114	—	3	B
C-106	甕	須恵器	奈良	不明	口径20.4 底径—	器高6.5 残	S E 030	1989.09	35-113	—	3	B
C-107	坏	須恵器	奈良	完形	口径13.1 底径2.9	器高3.8	S E 030	1989.09	21-38	14-42	3	A
C-108	坏	須恵器	奈良	85	濃い径18.高台径11.1	器高6.6	S K 031	1989.09	14-8	14-55	3	A
C-109	高台付坏	須恵器	奈良	75	口径14.3 高台径8.8	器高4.9	S K 031	1989.09	16-17	14-53	3	A
C-110	坏	須恵器	奈良	60	口径13.8 底径7.9	器高3.9	S K 031	1989.09	16-19	—	3	B
C-111	坏	須恵器	奈良	80	口径13.8 底径8.9	器高3.3	S K 031	1989.09	18-28	14-46	3	A
C-112	坏	須恵器	奈良	40	口径12.8 底径8.1	器高4.6	S K 031	1989.09	18-29	—	3	B
C-113	坏	須恵器	奈良	40	口径8.0 底径6.0	器高3.4	S K 031	1989.09	18-30	—	3	B
C-114	蓋	須恵器	奈良	不明	口径15.8 底径10.1	器高2.5	S K 031	1989.09	19-32	—	3	B

牟田寄遺跡 (B・C地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	報告書掲載 図面番号 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
MTY・C -115	高 坏	須恵器	奈良	55	口径15.5 底径11.4 器高10.6 推	S K 031	1989.09	20-47	15-61	3 A
C-116	坏	土師器	奈良	60	口径12.4 底径4.0 器高3.4	S E 036	1989.09	23-54	-	3 B
C-117	坏	須恵器	奈良	30	口径20.6 底径16.6 器高2.2 推	S K 037	1989.09	20-53	14-51	3 A
C-118	甕	弥生土器	弥生	不明	口径26.6 底径- 器高16.4 残	S K 038	1989.11	32-96	-	3 B
C-119	蓋	土師器	古墳	70	口径13.3 - 器高3.7	S K 040	1989.09	22-49	12-16	3 A
C-120	鉢	土師器	古墳	80	口径13.0 底径- 器高5.3	S K 040	1989.09	33-102	-	3 A
C-121	甕	土師器	古墳	不明	口径25.6 底径- 器高6.8 推	S K 040	1989.11	37-118	-	3 B
C-122	蓋	須恵器	古墳	不明	口径15.0 鈕径2.5 器高1.2	S K 040	1989.11	-	-	3 B
C-123	坏	土師器	奈良	30	口径19.5 底径13.3 器高1.3	S E 041	1989.10	23-51	12-28	3
C-124	甕	弥生土器	弥生	不明	口径23.0 底径- 器高22.4 残	S K 042	1989.10	34-105	10-8	4 A
C-125	坏	土師器	奈良	60	口径12.6 底径11.4 器高3.9 推	S K 042	1989.10	20-52	13-30	4 A
C-126	高台付坏	土師器	奈良	60	口径19.4 高台径12.4 器高6.2	S K 042	1989.10	24-56	13-33	4 A
C-127	鉢	土師器	奈良	65	口径23.6 底径 器高10.7 推	S K 042	1989.10	24-58	12-22	4 A
C-128	甕	土師器	奈良	不明	口径25.5 底径- 器高9.0 残	S K 042	1989.10	29-82	-	4 B
C-129	蓋	須恵器	奈良	ほぼ完形	口径15.3 鈕径2.4 器高3.0	S K 042	1989.10	23-55	-	4 A
C-130	蓋	須恵器	奈良	35	口径20.7 鈕径2.4 器高2.4	S K 042	1989.10	23-62	-	4 B
C-131	高 坏	須恵器	奈良	不明	口径21.8 底径- 器高6.5 推	S K 042	1989.10	24-59	-	4 B
C-132	蓋	須恵器	奈良	50	口径19.6 鈕径2.3 器高2.5 推	S K 042	1989.10	24-61	-	4 B
C-133	甕	須恵器	奈良	不明	口径53.6 底径- 器高一	S K 042	1989.10	27-73	15-63	5 A

牟田寄遺跡 (B・C地区) I 種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
MTY・C -134	甕	須恵器	奈良	不明	口径20.7 底径— 残 器高7.1		S K 042	1989.10	35-116	—	4	B
C-135	碗	瓦	鎌倉	70	口径16.4 高台径6.3 器高6.3		S E 043	1989.10	24-65	16-80	4	A
C-136	坏	土師器	鎌倉	80	口径15.5 底径10.1 器高3.1		S E 043	1989.10	25-67	—	4	B
C-137	壺(底部)	須恵器	鎌倉~室町	不明	口径— 底径8.0 器高—		S E 043	1989.10	24-69	—	4	B
C-138	碗	青磁	鎌倉~室町	40	口径16.1 底径5.7 器高5.3		S E 043	1989.10	25-66	—	4	B
C-139	甕	須恵土器	鎌倉~室町	不明	口径— 底径9.0 残 器高9.0		S E 043	1989.10	33-104	—	4	B
C-140	碗	青磁	鎌倉	40	口径16.5 高台径5.3 器高7.0		S E 043	1989.10	35-115	18-85	4	B
C-141	碗	青磁	鎌倉	50	口径15.7 高台径4.7 器高6.5		S E 043	1989.10	37-119	18-86	4	B
C-142	壺	陶器	室町~江戸	不明	口径— 底径6.8 残 器高6.4		S E 043	1989.10	—	—	4	B
C-143	碗	青磁	鎌倉	不明	口径16.3 底径— 残 器高5.3		S E 043	1989.10	—	—	4	B
C-144	小皿	青磁	鎌倉	25	口径10.8 底径5.0 推 器高2.2		S E 043	1989.10	—	—	4	B
C-145	小皿	青磁	鎌倉	25	口径11.2 底径5.4 推 器高2.6		S E 043	1989.10	—	—	4	B
C-146	碗破片一括	青磁	鎌倉	不明	— —		S E 043	1989.10	—	—	4	B
C-147	坏	土師器	奈良	55	口径13.3 底径2.1 器高3.5		S E 044	1989.10	25-63	16-75	6	A
C-148	蓋	須恵器	奈良	70	口径14.9 鈕径— 器高2.4		S E 044	1989.10	25-64	14-42	6	A
C-149	皿	土師器	奈良	90	口径9.3 底径7.1 器高0.9		S E 045	1989.10	23-60	—	6	A
C-150	甕	土師器	古墳~奈良	完形	口径14.0 底径8.0 器高14.6		S E 047	1989.10	15-9	12-18	6	A
C-151	甕	土師器	古墳~奈良	完形	口径13.3 丸底 器高12.9		S E 047	1989.10	32-98	12-17	6	A
C-152	甕	土師器	古墳~奈良	95	口径15 丸底 器高15.6		S E 047	1989.10	33-99	12-19	6	A

牟田寄遺跡 (B・C地区) I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig.番号	コソナチ番号	A・Bの別
MTY・C -153	甕	土師器	古墳～奈良	不明	推 口径19.4 底径—	残 器高10.1	S E 047	1989.10	38-121	—	6	
C-154	甕	弥生土器	弥生	不明	口径— 高台径7.8	残 器高9.1	S K 048	1989.11	32-95	—	6	B
B-155	甕	土師器	奈良	不明	口径22 底径—	残 器高13.5	S K 051	1989.11	4-10	—	6	B
B-156	鉢	土師器	奈良	不明	推 口径20.0 底径—	残 器高9.2	S K 051	1989.10	5-32	—	6	B
B-157	甕	土師器	奈良	不明	推 口径35.6 底径—	残 器高17.3	S K 051	1989.11	11-52	—	6	B
B-158	高台付坏	須恵器	奈良	70	口径16.0 高台径10.2	器高5.4	S K 051	1989.10	2-8	—	6	B
B-159	鉢	須恵器	奈良	不明	推 口径20.0 底径—	残 器高8.3	S K 051	1989.11	5-33	—	6	A
B-160	坏	須恵器	奈良	30	推 口径17.3 底径15.2	器高2.3	S K 051	1989.10	6-31	14-50	6	A
B-161	甕	須恵器	奈良	不明	推 口径29.5 底径—	残 器高9.0	S K 051	1989.10	7-30	—	6	B
B-162	甕	須恵器	奈良	不明	口径32.0 底径—	残 器高22.2	S K 051	1989.11	8-34	12-20	7	A
B-163	蓋	須恵器	奈良	30	口径13.9 鈕径2.8	器高4.1	S K 051	1989.10	6-29	—	7	B
B-164	甕	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径4.7	残 器高5.1	S D 052	1989.10	4-16	—	7	B
B-165	小皿	土師器	鎌倉	80	口径8.9 底径6.9	器高1.6	S D 052	1989.10	3-20	16-67	7	B
B-166	小皿	土師器	鎌倉	完形	口径8.7 底径7.6	器高1.7	S D 052	1989.10	4-17	—	7	A
B-167	鉢	土師器	古墳	40	口径15.4 底径—	残 器高6.7	S D 052	1989.10	5-19	11-13	7	A
B-168	鉢	土師器	古墳	65	口径12.6 丸底	器高7.1	S D 052	1989.10	5-21	11-12	7	A
B-169	坏	土師器	鎌倉	80	口径12.6 底径8.0	器高4.1	S D 052	1989.10	5-24	16-76	7	A
B-170	小皿	土師器	鎌倉	90	口径9.5 底径6.7	器高2.4	S D 052	1989.10	5-25	16-69	7	A
B-171	小皿	土師器	鎌倉	ほぼ完形	口径8.1 底径6.3	器高1.6	S D 052	1989.10	6-22	16-65	7	A

牟田寄遺跡 (B・C地区) I種

番 号	名 称	種 別	時代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
MTY・B -172	小皿	土師器	鎌倉	85	口径7.9 底径6.4 器高2.2	S D 052	1989.10	6-28	—	7	B
B-173	坏	土師器	鎌倉	25	口径13.2 底径7.1 器高3.7	S D 052	1989.10	6-35	16-77	7	B
B-174	甕	土師器	古墳	不明	口径15.4 底径— 器高17.6	S D 052	1989.10	10-39	11-14	7	A
B-175	鉢	土師器	鎌倉~室町	不明	口径21.7 底径— 器高9.6	S D 052	1989.10	6-26	16-84	7	B
B-176	鉢	土師器	鎌倉~室町	不明	口径42.7 底径— 器高9.7	S D 052	1989.11	7-27	—	7	B
B-177	鉢	土師器	鎌倉~室町	不明	口径30.2 底径— 器高5.2	S D 052	1989.10	9-37	—	7	B
B-178	坏	須恵器	奈良	40	口径10.7 底径6.7 器高3.9	S D 052	1989.10	3-18	—	7	B
B-179	碗	白磁	鎌倉	不明	口径16.2 底径— 器高4.2	S D 052	1989.10	9-36	18-87	7	B
B-180	石斧	石製品	弥生	ほぼ完形	最大幅6.2 幅4.7 長さ9.7	S D 052	1989.10	10-46	—	7	B
C-181	甕	土師器	古墳	95	口径16.4 底径— 器高23.7	S K 053	1989.11	30-88	11-15	7	A
C-182	小型丸底埴	土師器	古墳	不明	口径— 丸底 器高7.1	S K 053	1989.11	30-89	—	7	B
C-183	甕	須恵器	奈良	不明	口径18.6 底径— 器高9.0	S K 053	1989.11	32-97	—	7	B
C-184	壺	弥生土器	弥生	不明	口径27.8 底径— 器高7.9	S K 056	1989.11	37-123	—	8	B
B-185	高坏（脚部）	須恵器	古墳	不明	口径— 底径8.1 器高4.65	No.1 トレンヂ	1989.10	5-41	—	8	B
B-186	甕	弥生土器	弥生	不明	口径26.8 底径— 器高11.0	No.2 トレンヂ	1989.10	3-15	—	8	B
B-187	壺	弥生土器	弥生	不明	口径12.3 底径— 器高11.0	No.3 トレンヂ	1989.10	3-9	10-5	8	B
B-188	器台	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径13.2 器高15.2	No.3 トレンヂ	1989.10	3-12	—	8	B
B-189	器台	弥生土器	弥生	完形	受口径2.6 底径12.8 器高12.4	No.3 トレンヂ	1989.10	4-13	10-3	8	
B-190	鉢	弥生土器	弥生	55	口径12.0 底径— 器高11.0	No.3 トレンヂ	1989.10	10-38	10-1	8	A

牟田寄遺跡（B・C地区）I種

番 号	名 称	種 別	時代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	美濃図番号	報告書掲載 F1g番号	コンテナ番号	A・Bの別
MTY・B -191	小型丸底埴	土 師 器	古墳	不明	推 口径8.2 丸底 残 器高7.4	No. 3 トレンチ	1989.10	4-14	11-11	8	B
B-192	壺	須 恵 器	古墳	70	口径3.7 底径— 器高12.2	No. 3 トレンチ	1989.10	4-11	—	8	B
B-193	高 坏	弥生土器	弥生	不明	推 口径8.8 底径— 器高5.2	No. 4 トレンチ	1989.11	11-59	—	8	B
B-194	壺	弥生土器	弥生	80	口径10.3 底径5.4 器高16.1	No. 5 トレンチ	1989.11	1-1	10-7	8	A
B-195	甕	弥生土器	弥生	不明	推 口径13.9 底径— 残 器高7.7	No. 5 トレンチ	1989.11	1-3	—	8	B
B-196	器台	弥生土器	弥生	80	口径12.8 底径16.2 器高8.4	No. 5 トレンチ	1989.11	1-2	10-4	8	A
B-197	壺	弥生土器	弥生	不明	口径9.7 底径— 残 器高12.7	No. 5 トレンチ	1989.11	1-5	—	8	A
B-198	器台	弥生土器	弥生	70	口径13.5 底径15.6 器高17.5	No. 5 トレンチ	1989.11	2-4	—	No.8	A
B-199	甕	弥生土器	弥生	不明	推 口径24.6 底径— 残 器高8.4	No. 5 トレンチ	1989.11	2-7	—	8	B
B-200	鉢	弥生土器	弥生	65	口径9.3 底径4.5 器高4.85	No. 5 トレンチ	1989.11	2-6	10-2	8	A
C-201	小皿	土 師 器	鎌倉~室町	完形	口径8.0 底径7.3 器高1.1	C 地区表土下層	1989.11	—	—	8	B
C-202	櫛	木 製 品	鎌倉~室町	不明	残長さ4.9 幅5.35	S K 026	1989.09	39-124	—	9	B
B-203	不明	木 製 品	鎌倉~室町	完形	上部幅6.9 長さ23.7 下部幅9.0 厚さ1.9	S D 052 下層	1989.10	39-65	—	9	B
B-204	杓子型木製品	木 製 品	鎌倉~室町	完形	最大幅7.5 長さ24.2 最小幅4.05 厚さ0.7	S D 052	1989.10	40-63	—	9	B
B-205	杓子型木製品	木 製 品	鎌倉~室町	完形	最大幅7.1 長さ23.1 最小幅2.7 厚さ1.1	S D 052	1989.10	40-64	—	9	B
B-206	彷彿鏡	銅製品	弥生	95	外径6.7	No. 3 トレンチ	1989.11	12-64	—	8	B
C-207	坏 (墨書)	須 恵 器	奈良	不明	—	No. S K 026	1989.10	—	—	2	B
C-208	坏 (墨書)	須 恵 器	奈良	不明	—	No. S K 026	1989.10	—	—	2	B
B-209	碗	漆 器	鎌倉~室町	不明	—	No. S D 052	1989.10	—	—	9	B

牟田寄遺跡 (B・C地区) I 種

[illegible]

牟田寄遺跡 (B・C地区) I種

地区名	種別	時代	遺構	名	出土月日	コンテナ番号	袋数	備考
	土師器、須恵器破片		MTY・B	SK011.SK003.SK004.SK007	1989・11	11	11	
				SK008.SK009.SD011.SD012	・			
	土師器、須恵器破片		MTY・B	SD012	1989・11	12	9	
			MTY・C	SK015.SK016	・			
	土師器、須恵器破片		MTY・C	SE017.SK018.SE019.SK020.SK021	1989・11	13	12	
				SK022.SE023.SD024.SK025.SK026	・			
	土師器、須恵器破片		MTY・C	SK026	1989・10	14	5	
	土師器、須恵器破片		MTY・C	SK026.SK027.SK028.SD029	1989・09	15	7	
	土師器、須恵器破片		MTY・C	SD029.SE030.SK031.SE032.SE033	1989・09	16	12	
				SK034.SK035.SE036.SK037	・			
	土師器、須恵器破片		MTY・C	SK040.SE041.SK042	1989・10	17	9	
	土師器、須恵器破片		MTY・C	SK042.SE043.SE044.SE045.SK046	1989・10	18	9	
	土師器、須恵器破片		MTY・B	SK050.SK051	1989・11	19	8	
			MTY・C	SE047	・			
	土師器、須恵器破片		MTY・B	SD052	1989・10	20	10	
	土師器、須恵器破片		MTY・B	SD052.SD052下層	1989・11	21	12	
			MTY・C	SK053.SK054.SK055.SK056	・			
				SE057.SK058.SK059	・			
	土師器、須恵器破片		MTY・B	No1トレンチ、No2トレンチ	1989・11	22	10	
			MTY・C	SE060.SK061.SK062.SK063	・			

牟田寄遺跡（B・C地区）II種

地 区 名	種 別	時 代	遺 構	名	出土月日	コンテナ番号	袋数	備 考
			SK064.N02トレンチ		・			
	土師器、須恵器破片		MTY・B №3トレンチ		1989・11	23	7	
	土師器、須恵器破片		MTY・B №3トレンチ		1989・11	24	6	
	土師器、須恵器破片		MTY・B №3トレンチ		1989・11	25	6	
	土師器、須恵器破片		MTY・B №3トレンチ		1989・11	26	5	
	弥生土器、土師器破片		MTY・B №3トレンチ		1989・11	27	5	
	弥生土器、土師器破片		MTY・B №3トレンチ、№4トレンチ		1989・11	28	6	
	弥生土器、土師器破片		MTY・B №4トレンチ、№5トレンチ		1989・11	29	6	
			中央表土下層		・			
	弥生土器、土師器破片		MTY・B 表土下層、表土下層北東		1989・11	30	7	
			表土下層北部		・			
	弥生土器、土師器破片		MTY・B 表土下層、表土下層西		1989・10	31	5	
			表土下層東		・			
	弥生土器、土師器破片		MTY・C 表土下層		1989・11	32	7	
	弥生土器、土師器破片		MTY・D 表土下層		1989・10	33	5	
			確認調査 (№8.№13)		・			
	木製品、漆器、破片		MTY・B SD012. SD052. SD052下層		1989・10	34	10	
			MTY・C SK026		・			
	木製品破片		MTY・B SD052		1989・10	35		

牟田寄遺跡 (B・C地区) II種

佐賀市文化財調査報告書第31集

牟田寄遺跡

平成2年3月31日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 日之出印刷(株)
佐賀市高木瀬西6丁目11-5

